

がんばれ日本！ 世界は日本と共にある

東日本大震災直後から、世界各国・地域は日本に対して数え切れないほどの励ましのメッセージを届け、援助の手を差し伸べてくれた。それらの支援には、どのような思いが込められているのだろうか。また、私たち中学生は、その支援にどのように応えていけばよいのだろうか考えてみよう。

1 世界各国・地域からの迅速な支援

震災後三日間で、七つの国・地域（韓国、台湾、米国、シンガポール、中国、スイス、ドイツ）が被災地に入った。その中でも、震災翌日にいち早く消防防災庁職員などで構成されるレスキューチームを派遣したのは、お隣の韓国だった。



写真提供：駐仙台大韓民国総領事館

3月12日に救助犬チーム（人員5名と救助犬2匹）、さらに3月14日には追加支援隊員102名が派遣され、総勢107名という大規模な救助隊が仙台市で活動を始めた。警察と共に、救助犬や機器類を利用して、被害が大きかった宮城野区蒲生地区などで行方不明者の救助・捜索活動を展開した。

また、中国は3月14日から岩手県大船渡市で、台湾は3月16日から、モンゴルは17日から、宮城県名取市、岩沼市等でそれぞれ支援チームの活動を開始した。

2 国際姉妹都市をはじめ世界中からの仙台市へのお見舞い

3月12日・13日メキシコのアカプルコ市では、市民による被災者追悼の黙とうと献花が行われた。3月17日には、韓国の光州広域市から支援物資として飲料水、カップラーメン、生活必需品が届き、翌18日には中国の長春市から飲料水10トンが届けられた。3月19日フランスのレンヌ市では市庁舎の前で募金活動が行われた。

アメリカのリバサイド市からは市民の応援メッセージと寄付金が、ダラス市からも寄付金が届けられた。ベラルーシのミンスク市は被災した高校生訪問団を受け入れ、クロアチアは小学生訪問団を受け入れた。クロアチアでは首相から歓迎の言葉を直接いただくなど、厚いもてなしを受けた。

3 世界各国・地域からの励ましや祈り

- 【モンゴル】**
孤児院の子供たちが生活保護費の一部を義援金として日本に送った。
- 【中国】**
2008年に四川大地震を経験した中学校で「災害は一時的。同じ土地で楽しく暮らせる日は必ず来る。」と被災者を励ます手紙を書いた。
- 【韓国】**
「呼ばれなくても行くのが隣人だ」救助犬チームは、震災翌日、宮城県に到着した。
- 【国連】**
日本は今まで世界中に援助をしてきた援助大国だ。今回は国連が全力で日本を応援する。と発表した。
- 【アルゼンチン】**
被災者支援集会で「ガンバレ日本！ FUERZA JAPON！ 私たちの心は皆さんと共にある」と記された横断幕が掲げられた。
- 【ニュージーランド】**
日本語を学んでいる中学2年生から高校3年生までの生徒が、被災した方々に直接届くようにと、日本語の寄せ書きを大使館に送った。
- 【インドネシア】**
2004年のスマトラ沖地震で被害にあった人々が追悼式を開き、震災犠牲者に祈りを捧げた。
- 【イラン】**
プロサッカーリーグの試合前、選手たちはセンターサークル上で一つの輪を作り、黙とうした。
- 【ガーナ】**
被災者のために「伝統的な儀式による特別な祈り」が実施された。
- 【クロアチア】**
被災した子供たちを招待し、国賓級の待遇でもてなした。
- 【ポーランド】**
「日本人なら料金はいらない。これが今、日本人にできることから。」と言って、タクシーの運転手は料金を受け取らなかった。

こうした海外からの援助や日本国内のボランティア支援など、多くの人々に支えられて東日本大震災の復旧・復興は進められている。

? 考えよう

○復興への取り組みを継続していくために、私たちは何を考え、どんなメッセージを世界に向けて発信していけばよいか話し合ってみよう。